「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「地域学校協働活動（家庭教育支援活動）」（宮城県石巻市）

取組の概要や経緯

・家庭教育支援・・・家庭教育学級の開設、
家庭教育支援チーム活動

石巻市は東日本大震災で大きな被害を受け、子育て環境にも大きな影響を受けた。親子の居場所作りや心のケア、コミュニティの再構築が急務となったことを背景に、子育てサポーターやサポーター・リーダーが中心となって平成２３年９月から家庭教育支援活動をはじめ、行政や子育て支援団体等からの協力により、継続的に支援を続けている。

家庭教育学級
合同学習会の様子

子育てサロンの様子

内容

家庭教育支援：家庭教育学級の開設、
家庭教育支援チームによる事業の展開
（１）家庭教育学級
市内全・小中学校及び保育所、幼稚園等で実施
（２）家庭教育支援チームによる活動
子育てサロン、家庭教育学級講師、託児の実施

ポイント

・家庭教育学級の開設…小・中学校だけでなく私立の幼稚園などへ家庭教育学級開設について働きかけている。今年度は、合同学習会を２回開催した。

・家庭教育支援チーム活動…スタッフを身近な存在として感じ、気軽に育児相談できるような雰囲気づくりを大切にしている。

成果

・家庭教育学級の開設について、小中学校だけでなく保育所や幼稚園などへと拡大することによって、家庭の教育力を高めることができた。また、保護者同士のネットワーク作りにつながった。
・家庭教育支援チームやＮＰＯ団体の協力により、親の学び講座である「ノーバディズパーフェクト（ＮＰ）講座」を継続して行うことができた。

今後の方向性

・家庭教育支援事業は、家庭教育支援チームの活動により支えられている。チーム員の人材育成を重点に置きながら、今後も継続して子育て支援活動を展開できるようにボランティアの確保に努める。

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」
家庭教育支援事業の取組事例

「おやこdeキッチン」（　宮城県　塩竈市　）

取組の概要や経緯

震災後の家庭での教育力向上を図ることを目的とした、地域の食に関わる体験や学びの場を提供する事業。「食」及び「料理」に関する知識の習得、さらには協働での調理実習によって親子のコミュニケーションを深め、家庭で日常的に食や料理に興味関心をもって実践していく姿を目指す。

内容

おいしい食のワークショップを２回実施。親子参加型の事業で、対象は小学生と保護者。作業工程の一部を自宅に持ち帰り、家庭での学習と親子のかかわりの機会を図った。

①「干し柿つくり」
　柿の皮むきやひもを結ぶ作業に親子で取り組んだ。その後の煮沸や干す作業を自宅で行った。

②「干物つくり」
　地元水産業者の協力を得ながら魚を下す体験を行った。塩水に漬け、干す工程を自宅で行った。

ポイント

①親子参加型の事業で、自宅での作業工程を持ち帰り、家庭での親子のかかわりや学びの機会を図る。
②地元水産業者の協力を得ることで、自分のまちを知るきっかけや魚食普及にもつなげる。

成果

- 参加親子（のべ）19組、参加者総数56人（満員）
- 家庭での親子のかかわりや学びの機会を提供することができた。
- 地元の食材である「魚」を取り上げることで、自分たちの住む「魚のまち」への愛着を育むきっかけになった。

今後の方向性

コロナ禍での実施で参加者を削減したが、感染症対策を講じながら参加者を増やしていきたい。

また、地元企業や地域の栄養士とのネットワークによる、食による教育力向上のプログラム作りを構築し、地域力の向上を目指す。

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」
地域学校協働活動推進事業の取組事例

「気仙沼市プラットフォーム事業（家庭教育支援事業）」（宮城県気仙沼市）

取組の概要や経緯

地域人材や地域の社会教育資源等を活用し，家庭・地域・学校・行政の協働による学びの場づくりを推進することにより，学習支援を通した地域の活性化を目指し，地域全体で子どもを育てる体制づくりに努めている。

内容

生涯学習課が主となり，市内全域の子育て世代を対象に家庭教育支援活動を展開した。親子での音楽体操教室や歯磨き講座，乳幼児の救急対応教室などを行った。また，市内の公民館区に地域コーディネーターを置き，公民館と地域コーディネーターが地区内で展開する家庭教育支援活動では，親子での料理教室やもの作り教室を行った。

ポイント

①親業インストラクターや地域の歯科医，地元で親子イベントを展開しているＮＰＯ団体などを講師として活用し，子育て世代のニーズを把握しながら事業を展開している。
②料理作りやもの作りを通して親子がふれあう場面を設定する。

成果

- 親子が楽しめる内容を考案し，子育てに関した内容を取り上げたり，親子が一緒に楽しめる時間を作り上げたりしたことから，参加者の充実度・満足感が高い。
- 子育て世代の親同士で交流からつながりが生まれている。

今後の方向性

- 地域人材を生かした事業展開の継続。
- 参加者のニーズを把握した事業内容の展開と親同士の交流を促進する。

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「親子に寄り添い共に学ぶ家庭教育支援　」（宮城県白石市）

取組の概要や経緯

平成26年度に結成した家庭教育支援チームの活動を中心に、家庭教育の講座等を行い、親の学びの機会を作ってきた。
また家庭教育支援チーム員の研修も平成26年度より継続して行いスキルアップを目指している。

内容

「親の学びのプログラム出前講座」では、しろいし家庭教育支援チーム「ペアレントらん」が講師を務め、小学校で行われる発達検査、一日入学説明会の機会を活用し、未就学児の保護者向けに、入学における不安等を保護者同士で考える出前講座を実施している。

ポイント

・学校行事等必ず保護者が参加する場に出向いて講座を行うこと。
・答えを示すのではなく、参加者が自分で考え、気づいてもらえるように心がける。
・子連れの参加者が安心してプログラムに集中できるよう、子どもを見守る人員も用意する。

成果

・コロナの影響により、活動を縮小せざるを得ない状況ではあったものの、出前講座の依頼には全て応じることができた。
・小学校の就学時検診や１日入学等で出前講座を行うことで、仕事等で普段積極的に講座等に参加しづらい保護者も、子育てについて振り返り、気づきを得る機会になった。また、学校側も普段保護者に伝えにくいことも第3者の立場から伝えることができ好評であった。

今後の方向性

・来年度も引き続き家庭教育支援チームの出前講座を行う。
・未実施の学校、保育園・幼稚園等についても働きかけをしていく。
・未就学児を対象にした講座でも、親の学びのプログラムや保護者の情報交換の場を盛り込んだプログラムを考えていく。

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」
家庭教育支援活動の取組事例

「保護者を支える家庭教育支援活動」（宮城県　名取市）

取組の概要や経緯

近年、少子化や核家族化などに伴い、家庭を取り巻く課題が複雑化・深刻化する傾向にある。様々な課題解に向けて、**親子で参加する学習機会**の提供、**子育てサポーター養成講座の開催**、**就学時検診時の保護者説明会の時間を活用した家庭教育講座・保護者同士の交流**を行うことなど、健全な子供の育成を目指している。

内容

- 家庭の教育力の向上を図るため、「子育て・親育ち講座（親子参加型の家庭教育に関する各種講座、学習会等）」を開催する小・中・義務教育学校を対象に学習活動を支援する。
- 名取市子育てサポーター養成講座を開催し、**安心して子供を生み育てることができる地域環境づくりの促進と地域で活躍できる人材の育成**を図る。
- 家庭教育支援チームを活用し、就学時検診時に保護者を対象とした家庭教育講座を実施。基本的な生活習慣の大切さや子供への好ましい声掛けなどの話題を提供し、子供とのかかわり方を考える機会とする。

ポイント

①講座の開催を促進するために、各校に１年間の実績をまとめた冊子を送付する。
②子育てサポーター養成講座は全４回で設定。**今日の家庭・親・子を取り巻く問題に幅広く触れることができるような講師を依頼・講座内容**にする。
③就学時検診の講座は、“学びの場”のほかに**“交流の場”という点も重視**し、保護者同士が知り合いとなり、安心して子育てできるネットワークの構築につなげる。

成果

- 「子育て・親育ち講座」「子育てサポーター養成講座」参加者に行ったアンケート調査での満足度は、両講座とも肯定的な意見が１００％と好評であった。
- 子育てサポーター養成講座修了者が「今回の学びを生かしたい」「自分の経験を伝えたい」という思いを持ち、新たに１０名の方に支援チームに登録していただいた。

今後の方向性

- 家庭教育支援の必要性を周知し、じっくりと活動を続けていくことができる体制をつくる。
- 家庭教育支援チームと地域学校協働本部が連携することで、各地域での家庭教育の充実を図る。
- 家庭教育支援チームがより自立したチームとなるように定例会を開催するとともに、研修会等への参加を促し、人材を育成していく。

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」
家庭教育支援活動の取組事例

「保護者を支える家庭教育支援活動」（宮城県　名取市）

取組の概要や経緯

近年、少子化や核家族化などに伴い、家庭を取り巻く課題が複雑化・深刻化する傾向にある。様々な課題解に向けて、**親子で参加する学習機会**の提供、**子育てサポーター養成講座の開催**、**就学時検診時の保護者説明会の時間を活用した家庭教育講座・保護者同士の交流**を行うことなど、健全な子供の育成を目指している。

内容

- 家庭の教育力の向上を図るため、「子育て・親育ち講座（親子参加型の家庭教育に関する各種講座、学習会等）」を開催する小・中・義務教育学校を対象に学習活動を支援する。
- 名取市子育てサポーター養成講座を開催し、**安心して子供を生み育てることができる地域環境づくりの促進と地域で活躍できる人材の育成**を図る。
- 家庭教育支援チームを活用し、就学時検診時に保護者を対象とした家庭教育講座を実施。基本的な生活習慣の大切さや子供への好ましい声掛けなどの話題を提供し、子供とのかかわり方を考える機会とする。

ポイント

①講座の開催を促進するために、各校に１年間の実績をまとめた冊子を送付する。
②子育てサポーター養成講座は全４回で設定。**今日の家庭・親・子を取り巻く問題に幅広く触れることができるような講師を依頼・講座内容**にする。
③就学時検診の講座は、“学びの場”のほかに**“交流の場”という点も重視**し、保護者同士が知り合いとなり、安心して子育てできるネットワークの構築につなげる。

成果

- 「子育て・親育ち講座」「子育てサポーター養成講座」参加者に行ったアンケート調査での満足度は、両講座とも肯定的な意見が１００％と好評であった。
- 子育てサポーター養成講座修了者が「今回の学びを生かしたい」「自分の経験を伝えたい」という思いを持ち、新たに１０名の方に支援チームに登録していただいた。

今後の方向性

- 家庭教育支援の必要性を周知し、じっくりと活動を続けていくことができる体制をつくる。
- 家庭教育支援チームと地域学校協働本部が連携することで、各地域での家庭教育の充実を図る。
- 家庭教育支援チームがより自立したチームとなるように定例会を開催するとともに、研修会等への参加を促し、人材を育成していく。

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」
地域学校協働活動の取組事例

「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」（宮城県　多賀城市）

取組の概要や経緯

【家庭教育事業】
　学校・家庭・地域による相互の連携が求められる中、その一端を担う、家庭での教育の重要性が高まっている。そのため、子育て、食育等に関する家庭教育講座を実施したり、家庭教育支援チーム員による相談活動等を行ったり、家庭での教育力（親教育力）の向上を図る。

内容

【家庭教育事業】
・小中学校で子育て等に関する講座を実施
・家庭教育支援チーム員による親の学び講座、相談活動　等

ポイント

・入学説明会や就学時検診等を活用し、より多くの保護者が参加しやすいようにしている。
・各学校の年間行事の中で、柔軟に計画しやすいように期間を広げたり、中学校区毎の地域ぐるみ生徒指導の講演会やフリー授業参観での家庭教育講座を実施するなどの工夫をしている。

成果

・今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、家庭教育講座を実施することができなかったが、親子で一緒に取り組む「万葉ぬり絵コンテスト」を実施し、ぬり絵を通して児童生徒が多賀城の文化や歴史に触れるきっかけを与えることができた。

今後の方向性

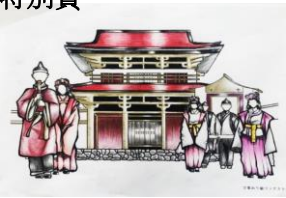
・保護者や地域の実態やニーズに合わせた講座を実施を検討する。

市 長 賞

教育長賞

万葉まつり実行委員長賞

万葉まつり実行委員会
特別賞



デザイン賞

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」(家庭教育支援)の取組事例

「地域の人・事・物に触れ合う時間と場所を」(宮城県登米市)

取組の概要や経緯

子育てサポーターやサポーターリーダー資格を持つ市民が、子育て中の保護者を支え、震災を経て転入者、転居者が増加したことで、希薄になりつつある、住民同士のコミュニティの再構築や、保護者同士の交流機会、保護者の心が休まる時間を提供していく

内容

○ 子育てサポート事業(託児)
公民館、ふれあいセンターをはじめ、市が主催する事業やイベントの際、保護者が安心して事業に取り組めるよう、同じ会場内で乳児や未就学児の託児を市子育てサポーター登録者が行う。
○ 家庭教育支援チーム
平成30年度に本市にて家庭教育支援チームを発足。子育て世代の親としての学びの支援を目的とし、市内の子育てサークルメンバーや県子育てサポーター養成講座修了者17名で活動している。

ポイント

１．保護者が子どもから離れる時間（託児）を提供することで保護者の心を休める時間をつくるとともに、親の学びの機会を提供する。
２．保護者同士、地域住民との交流により、子育てや子どもに対する悩みや不安を共有し合えるコミュニティ形成のきっかけをつくる。

成果

・子育てサポート事業
今年度の託児の利用実績はなかったものの、公民館等の事業参加者募集に積極的に活用してもらい、幅広い世代の事業参加を支援できた。
・家庭教育支援チーム
アウトリーチ型の事業は開催できなかったものの、市内の子育ての現状をテーマに保健師や助産師を講師に招き、市子育てサポーター登録者と家庭教育支援チーム員の合同研修会を開催し、支援者として何ができるかを学び、仲間と共有した。

今後の方向性

・【子育てサポート事業】事業の認知度が低いため、公民館をはじめ、市関係機関等への周知を図る。また、引き続き県子育てサポーター養成講座修了者へ登録について声掛けし、登録者の増加を目指す。
・【家庭教育支援チーム】日頃から多方面で活動するメンバーで構成されているため、定例会を開催しチーム員の連携強化を図る。また、チーム員が主体となって事業運営ができるよう積極的に研修会等を開催し、チーム員の更なるスキルアップを支援する

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」
家庭教育支援活動の取組事例

「できることを、できるときに、できるところから、みんなで育もう栗原っ子」（宮城県栗原市）

取組の概要や経緯

〇家庭を取り巻く環境や家族形態の変化により、子供の教育や躾について不安をもつ親が少なくない。また、不安を感じていても相談する場や学ぶ機会を親がなかなかもてないでいる。こうした状況を踏まえ、子育てについての学習機会や保護者同士の情報交換、親子の交流やふれあいを通じて子供の躾や子育てについて考える機会を提供し、家庭の教育力の向上を図っている。

一日入学時に家庭教育学級を開催

内容

〇保・幼・小・中学校において、「親の学び」の機会となる講習会や情報交換会、親子ふれあい活動などの家庭教育学級の開催を推進している。また、市として家庭教育支援講座を企画し、希望する小学校に講師を派遣し、講座を開催することで家庭の教育力の向上を図っている。
〇保・幼・小・中学校において開催される家庭教育学級を対象に、講師謝礼を助成している。
〇家庭教育を支援する人材を育成するための学習機会や情報交流の場の提供を行うとともに、家庭教育支援団体の活動を支援することで、地域の家庭教育力の向上を図っている。

準備の様子

ポイント

〇宮城県が進める「学ぶ土台づくり」の一環として、栗原市家庭教育支援チーム員が県教委で作成した「親のみちしるべ」を活用した「親の学び研修会」には、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う予防対策として、活動を支援することができなかった。
〇市内の小学校からの要請（１日入学など）で、子供の躾けや子育てについて考える機会を提供する家庭教育学級を行った。

成果

〇栗原市家庭教育支援チームが主となり、家庭教育学級や放課後子ども教室への支援に積極的に関わることで、不安や悩みを抱える親に対して寄り添う活動ができたり、子供の健全な育成に寄与したりすることができた。

今後の方向性

〇今年度の活動を礎に、さらに子育てに悩みを抱える保護者や、未来を担う子供たちのための活動の充実を図っていく。
〇宮城県が主催する各種講座・研修会に参加し活用することで、家庭教育を支援する人材を育成していく。

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」(学び支援コーディネーター等配置事業)の取組事例

父親の積極的な家庭教育参画を目指した東松島市「すこやか学級」の開催(宮城県　東松島市)

取組の概要や経緯

　すこやか学級は子どもの心身の発達や家庭教育の大切さなどを学び，親相互の交流などを図る事を目的に開設しており，最大の目標を「家庭の教育力の向上」としている。２０年以上の歴史があるが，行政で企画を行い，外部講師を依頼して講座を開催している。
　最近の参加者からは，東松島市にも家庭教育支援チームが必要であるという声が上がるようになり，保護者だけへの支援ではなく，チーム設立へ向け，すこやか学級保育ボランティアへの支援も行っている。

内容

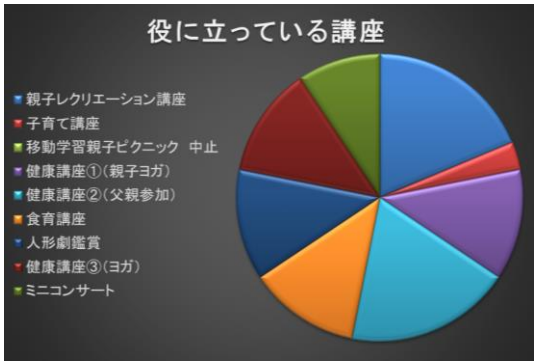
　受講対象者を未就学児の子育てを行っている保護者として年間９回の講座を開催している。具体的な内容としては，「親子レクリエーション」「子育て講座」「健康講座」「食育講座」「移動学習会」となっている。
　役所内の健康推進課との連携を図ったり，外部講師として市内外の方々の協力を得たりして，子育て中の保護者むけた学びと心や身体の癒しを提供している。
　保護者が安心して学習に臨めるよう，保育ボランティアを募り託児を行っている。

ポイント

　「子育て」が「孤育て」にならないよう，“脱！ワンオペ育児！！お父さんも一緒に”として，父親が参加しやすい休日に講座を設定し，学習会を開催した。
　父親が簡単に関われる子育てとして「歯みがき」を取り入れた講座を開催した。
　市内にある歯科医の歯科衛生士に講師を依頼し，市内の乳幼児や未就学児の歯の健康事情を詳しく伝えてもらった。また，歯みがきは歯の健康を保つだけではなく，親子のコミュニケーションやスキンシップを取るのに重要な役割を果たしていることを伝えてもらった。

成果

　受講生全体の８割近い父親の参加があり，父親の育児に対する関心の高さがうかがえた。
　家族そろった子育てを継続していこうという意識付けにつながった。
　参加した受講生から「父親へ育児の理解を深めてもらうためにもよい企画，また作ってほしい」と感想があった。



今後の方向性

　父親の参加を促した学習会は今年度が初めてであったが，子育て中の親からは今後も開催してほしいという声が多数寄せられている。実技講座以外にも子育てに関する知識を学べる講座の開催も組み入れていく。
　設立を目指している東松島市家庭教育支援チームのチーム員に女性だけではなく，男性も登録できるよう子育てサポーター及びサポーターリーダー養成講座を幅広く周知していく。

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「　親学びサロンを中心とした家庭教育支援活動　」（宮城県　大崎市）

取組の概要や経緯

　平成28年に大崎市全域において家庭教育を支援するべく支援チームを設置。以降、協働教育の理念に基づき、旧6市町を舞台に「親学びサロン」を実施してきた。

内容

・市生涯学習課が事務局となり、チーム員と連絡を取りながら企画調整を行い家庭教育支援活動の充実に努めている。
・「親学びサロン」では、傾聴講座やわらべうた・手遊び講座、写真撮影・アルバム作成講座、県作成“親のみちしるべ”によるワークショップ講座を実施し、親と子の愛着形成に着目したプログラムを組んでいる。

ポイント

・教員ＯＢ、民生委員、ＰＴＡ役員等の多種多様な地域住民でチームを構成。
・周辺自治体と積極的に交流し、本市のみならず圏域全体の家庭教育支援の機運醸成に努めている。

成果

・事業実施の際には新型コロナウイルスの感染拡大防止に努め，参加者からの肯定的な評価が目標値（90%以上）を達成した。
・親学びサロンの実施により、各地域において新たな人材発掘が進んだ。
・事業の継続的実施により、チーム員の増員や熱量が高まった。
・市生涯学習課が事務局になっていることから、行政と市民の協働体制が構築された。

今後の方向性

　これまでの「親学びサロン」を市中心部で継続しつつ、新たな支援者の発掘や育成を図り，アウトリーチ型支援のあり方を検討するなど，広く市民に支援が届くような体制を構築する。

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

６－２(３)家庭教育支援活動「親子ふれあい教室」(　宮城県　蔵王町　)

取組の概要や経緯

２歳６か月児健康診査に訪れた親子を対象に、手遊びや絵本の読み聞かせの実施、親子でふれあい楽しむ機会をつくり、子どもの心身の育成とともに親子のスキンシップを図る機会とする。

内容

親子体操や指遊び、読み聞かせなどにより、親子でふれあいながら楽しむ機会を提供する。マラカス作りやわなげ作りなど、家庭でも簡単にできる体験を行っている。

ポイント

蔵王町子育てサポーターの活躍の場として、年間計画を立てながら準備を進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により何回か中止となった。

成果

新型コロナウイルス感染症の影響により何回か中止となったが、消毒や換気など、感染症対策を徹底しながら再開することができ、参加した親子はとても楽しんでいる様子であった。コロナ禍において、託児の減少により子育てサポーターの出番が確実に減っているが、この親子ふれあい教室で、生き生きとした姿を見ることができほっとしている。

今後の方向性

子育てサポーターの活躍の場として、引き続き実施していく。

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「地域学校協働活動推進事業（家庭教育支援活動）」（宮城県柴田町）

取組の概要や経緯

柴田町では，平成２１年度から小学校就学時発達検査の際，保護者対象の「子育て・親育ち講座」を実施。平成２６年度からは講話の他にグループワークを取り入れ，参加者が主体的に考える形へと変化させてきた。

平成２４年度からは父親の育児参画と交流を目的とした「イクメン講座」を，平成２７年度からは「親のみちしるべ出前講座」を実施。平成２８年度からは中学校入学説明会時に保護者対象の「子育て・親育ち思春期講座」を行い，切れ目ない家庭教育支援活動を目指している。

内容 ※1月末現在

①親の学び塾開設

・子育て・親育ち講座の開催（10月，年6回）：町内全小学校の入学予定児童の保護者に対し，学びのプログラム「親のみちしるべ」を活用した講話を実施。（新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮しグループワークは中止）【参加者254名】

・イクメン講座の開催（9月～1月，年3回）：父親と子で料理や工作等の講座を町内2生涯学習センターにて実施。【参加者23組51名】

・親のみちしるべ出前講座の開催（12月，年1回）：子育て中の親が「親のみちしるべ」を活用し，交流を図りながら子育てについて学びあう機会を提供。【参加者5名】

②子育て・親育ち思春期講座（1月～2月，年5回）：町内全小学校の中学校入学前の保護者に対し，親としての関わり方を学ぶ講話を実施。【参加者303名】

③おやじの会活動の支援：「東船岡おやじが楽しむ会」が11月の東船岡秋祭りで遊びのブースを出店（新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し中止）

④子育て支援ネットワーク協議会において子育て関係機関等と連携し情報交換を年4回実施。（新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮し第1回目は書面開催）【構成員13名：子ども家庭課，こどもセンター，保育所，児童館，町立幼稚園，健康推進課，生涯学習課，子育てサポーターリーダー，社会福祉協議会】

ポイント

子どもの誕生から義務教育終了までの各段階で子育てについて学ぶ場を設け，切れ目ない家庭教育支援活動を行うため，以下の目標を設定。

①親や保護者への子育てに対する不安解消

・家庭教育講座受講後の子育てに関する肯定的な回答を「親のみちしるべ出前講座」及び「イクメン講座」８５％以上，「子育て・親育ち講座」７０％以上とする。

成果 ※1月末現在

・「親のみちしるべ出前講座」は目標値を達成することができたが，「イクメン講座」及び「子育て・親育ち講座」はわずかながら目標値に及ばなかった。特に「子育て・親育ち講座」は就学時発達検査の際，保護者対象に実施するため，自主的に参加するものではないことから，ストレス軽減度が低い結果になったと思われる。講座内容の精査は必要だが，学ぶ余裕がない保護者や関心が低い保護者に対し，家庭教育の必要性を伝える貴重な機会となったと考えられる。

項目＼講座	親のみちしるべ出前講座	イクメン講座	子育て・親育ち講座
内容がよかった	100.0%	100.0%	96.4%
ストレスを「全然感じていない」＋「ストレスが減った」	80.0%	69.6%	43.3%
※平均値	90.0%	84.8%	69.9%

【各講座の受講者のアンケート調査における子育てに関する肯定的な回答平均値（1月末現在）】

今後の方向性

・新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を講じながら，町内全域において，学童期・思春期それぞれの保護者の学びの機会である家庭教育講座を継続して実施していく。

・柴田町子育てサポーターは家庭教育支援チームとして意欲的に活動している。新旧サポーター間の知識や情報の共有，全体的なファシリテート力の向上のためにスキルアップ研修を行い，メンバーの変動に左右されない継続的な支援活動を目指す。

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」(学び支援コーディネーター等配置事業)の取組事例

「家庭教育支援活動(親育ち応援講座)」(宮城県亘理町)

取組の概要や経緯

・都市化、核家族化が進む中、東日本大震災を経てますます地域における地縁的なつながりが希薄化する現状を踏まえ、家庭の教育力の向上を目指した参加・参画型の家庭教育支援事業を展開し、保護者の孤立化を防ぐ。

内容

・町内の幼稚園や各保育所、児童センター等を会場に、宮城県が作成した家庭教育の道標となる「親の学びのプログラム『親のみちしるべ』」を活用し、子育てや自分への気付きを得るきっかけと、子育てに対する不安軽減を図る。

※令和２年度実施

亘理保育所：３歳児，５歳児の保護者

いちようの実幼稚園：コロナウイルス感染防止の為，中止

中央児童センター：０～５歳児の保護者

ポイント

①新型コロナの感染防止策を徹底して，活動を行う。

②保護者の様々な年代に対応した学習プログラムの実践と支援体制の構築。

③幼稚園、保育所等との日常的な連携・協働。

④町主催の子育てサポーターの力量形成と支援。

成果

・子育て中の悩みや気になっていることなどを、保護者同士が気軽に語り合うことができた。また、子育てサポーターが保護者間の潤滑油となり、保護者同士の関係性を好転することができた。

（講座内容に対する参加者の肯定的な回答割合　94%）

今後の方向性

・現在、多くの保護者が集まる機会をとらえて事業展開しているが、就学時検診や定期健診など、当課以外が主催する場でも事業展開できるように、他課との連携をより強化したい。

・支援者となる子育てサポーターの会員を継続的に確保するために、HPや広報誌、チラシやポスター等、より積極的な周知活動に努める。

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」
地域学校協働活動（家庭教育支援活動）の取組事例

地域で家庭教育を支えるネットワークの構築を目指す家庭教育支援活動（宮城県七ヶ浜町）

取組の概要や経緯

家庭教育支援の社会的な課題に対応するため，宮城県教育委員会が作成したプログラムを活用した講座を実施することで家庭の教育力向上を目指す。

内容

「親の学びのプログラム『親の道しるべ』」を活用した講座を実施することで，子育てや自分への「気付き」を得るきっかけをつくったり，子育てに対する不安を軽減・解決したりするとともに，参加者同士の交流を通して地域で家庭教育を支えるネットワークの構築や家庭の教育力の向上を図る。

ポイント

①小中学校や幼稚園など，家庭教育講座の希望調査を実施。
②講座のメインファシリテーターとの事前打ち合わせを実施。
③活動内容やアンケートをまとめた報告書を作成し配付。

成果

・コロナ禍であったが，子育て支援センターを利用している保護者12人を対象に講座を実施することができた。参加者全員が「講座に参加してよかった」とアンケートで回答している。
・子育てに対する悩みを分かち合え「悩みを共感でき，うれしかった。安心した。」という記述がアンケートに見られ，子育ての不安軽減に繋がったことがわかる。

今後の方向性

・家庭教育支援チーム員を増員するために県主催の子育てサポーター講座への参加を促す。（町広報に掲載）また，町独自のサポーター養成講座を実施する。
・家庭教育支援チーム員のファシリテーターとしてのスキルアップのために，定例会を開きロールプレイ等をすることで技能の向上を目指す。

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「家庭教育支援事業」（宮城県利府町）

取組の概要や経緯

近年、核家族化等の家族形態の変容や都市化、少子化が進み、家庭や家族を取り巻く社会状況の変化の中で、家庭の教育力の低下が指摘されている。また、地域のつながりの希薄化を背景に、子育て中の保護者が地域の中で孤立してしまうことが増えてきている。このように、子育て家庭や子供たちを地域全体で見守り支えることの必要性が高まっている中で本町の家庭教育支援事業が開始された。また、平成28年には家庭教育支援チームを立ち上げ、翌年からは、宮城県地域学校協働活動推進事業の補助事業として実施している。

内容

〇「コロナ禍における子育て」をテーマに、保護者同士が悩みや苦労を伝え合い、負担を和らげるとともに、保護者同士のコミュニティづくりを図る。
〇町内で活躍する子育て支援団体の活動の場を創出するとともに、子育てに悩みを抱える保護者の不安解消を図る。

【支援チームによる自主企画】

ポイント

①保護者同士が、気軽に思いや考え、情報共有できる場を提供することで、保護者自らが今後の子育てに生かせることを学び取る。
②家庭教育に関する専門知識や経験を有する人材を活用することにより、保護者に対して専門的な学びを促す。

【育児は育自】

成果

・自主企画の講座のアンケート結果では、参加者全員から「また参加したい。」「これからも定期的に開催してもらいたい。」等の感想が聞かれ、参加者にとって有意義な学習機会となった。
・子どもたちの成長に応じた親の悩みを講師が個別相談を行い、悩みの解消につながった。
・「コロナ禍での子育て」や「新型コロナウイルス感染症に関する知識」をテーマに事業内容を構成し、今日的課題に悩む保護者を支援することができた。

今後の方向性

・受講者同士でのディスカッションや参　加体験型の講座等、参加者が主体的、かつ相互に学び合う学習方法の講座を積極的に取り入れる。
・他課との連携を図り、町内の様々な場面で家庭教育支援チームの活躍の場を増やす。
・感染症の状況を把握しながら活動内容を吟味していく。

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」(学び支援コーディネーター等配置事業)の取組事例

「町は学校」学校・家庭・地域が連携した教育活動(宮城県　大和町)家庭教育支援

取組の概要や経緯

震災以前からの活動が震災後も継続して行われてきていることに加え、震災後の人口増による地域づくりに対応するために交流促進を図る活動が展開されている。

家庭教育支援事業では、家庭・地域・学校と協働し，子育てしやすい環境を整え，安心して子どもを生み育てる環境づくりに努め，子育ての支援と親の学びを図ることを目的にたいわ家庭教育サポートチームを設置し、各種事業を行っている。

内容

◎家庭教育支援　　〇子育て講座 〇幼児学級 〇にこにこままサロン 〇遊び場どうじょ！
〇たいわ家庭教育サポートチーム事業　〇家庭教育支援広報誌「までぇに」の発行

町内の子育て世代を対象に、子育てサポーターやサポートチームとの交流や参加者同士の交流を図ることで、子育てに関わる不安や心配が少しでも軽減されるよう活動を行っている。今年度は感染症対策を講じながらの事業実施となったが、事業の実施には、たいわ家庭教育サポートチーム、子育てサポーター「ままサポどれみ♪」の尽力が大きく、講座の運営や参加者との交流、見守り託児など、様々に活躍している。

ポイント

①活動及び学校毎に記録写真を用いた**「活動啓発報告カレンダー」「協働教育ニュース」**を発行、配布し、活動の様子を共有している。
②サポートチーム員として、社会福祉協議会や民生委員・児童委員、町内児童館など、活動に関わる各団体の担当者が集まり話し合うことで、年間の活動の把握と支援体制を整えている。
③**「子育て通信」**を隔月で発行し、児童支援センターや児童館、町内保育園など町内の子育て施設のイベントをカレンダー形式で掲載。コラムや子育て体験談も掲載している。

成果

・子育てに関する情報提供を通して、若い親世代とボランティアが交流し活動が広がっている。
・活動を通してボランティアと親たちが顔見知りになることによって、地域で子育てしやすい環境づくりへ貢献している。

今後の方向性

・子どもを地域全体で育むために，各地区の特徴を活かした活動を支援する。
・地域間の人材不足や人数の格差の解消に向けて、地域を越えた活動についても促進する。
・サポートチーム員として活動できる人材の育成を図り、継続した取り組みとして今後も取り組んでいく。

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「家庭教育支援活動　行ってみっぺし!!　」（　宮城県　女川町　）

取組の概要や経緯

　親等の養育者が家庭で子どもを養育する場合の心構えや子どもへの接し方、留意点など、家庭教育上の諸問題を解決あるいは改善する学習の場として実施する。また、震災で崩壊した地域コミュニティーの形成を目指すため実施する。

内容

　次年度女川小学校に入学予定の保育所年長児保護者を対象に、学校生活についての理解を深める。また、教職員や先輩ママから話を聞くことにより、入学に向けての保護者としての役割を学び、小１プロブレムの対策について考える機会と震災で崩壊した地域コミュニティーの形成を目指す。

ポイント

〇女川町子育て応援サークル「マザーズリング」の協力を受け、保護者同士の輪を形成させる。
〇小学校の現1年生の担任や養護教諭に講師として講話をいただく。特に、初めて子供を入学させる母親の不安を解消させる。

成果

〇保護者から「給食の様子を見学できてよかった」と感想があった。生活面で、入学するまでに身に付けておかなければならないことが気になっていたことが解消できたようである。
〇他の保育所の保護者と交流ができたことで、不安が解消したと感想を話していた保護者もいた。
〇学校には、担任以外にも相談できる先生がいることが分かり、よかったと話している。

今後の方向性

　母親を中心に事業を添加してきたが、父親にも参加してもらえるような投げかけが必要であると感じた。また、1回だけの講座では、不安の解消につながるとは考え難い。そのため、年間を通して数回の計画を立てる必要がある。